

## 科学と宗教

- 1) 因果律をめぐって
- 2) 目的論をめぐって
- 3) 見えないものをめぐって
- 4) 聖なるものをめぐって

## 目的論をめぐって

- (1) 科学は、なぜ目的因を排除したのか
- (2) 宗教の側からの目的論の主張 (自然神学)
- (3) 自由意志
- (4) 未来、希望、終末論
- (5) 共同体の目的

## 目的論をめぐって

### (4) 未来、希望、終末論

- 目的は未来(予測)にかかわる (現在の不安)  
未来(目的)の視点から見ることによって、現在の意味が見える
- ・ 宗教における未来予測 予言、希望 (終末論)  
現在の改善、義の実現、恩寵・感謝 (倫理的) 積極的な面  
現在は仮のもの → 諦念 消極的な面
- ・ 科学の不確実な未来予測 環境問題  
未来の予測 → 現在の改良・コントロール (物理的対策)  
数学的解析の限界 (複雑系)  
弱い論理形式による推論  
帰納(induction) aもp、bもp、cもp : pである  
類推(analogy) aとbは似ている :  
aでcが成立している → bでもcが成立している

## 目的論をめぐって

### (4) 未来、希望、終末論

- 宗教の未来とのかかわり方  
・ 神の摂理、経綸  
歴史があつてはじめて目的は成立する  
歴史を超越して全体を見渡せる全知全能の神には、過去・未来はないので、目的はあり得ないのではないかと すべて必然、決定論  
なぜ全知の神がヨブを試したのか？
- ・ 「死」の問題  
目的の連鎖 → 個人にとっては「死」において終焉  
宗教は、「死」を超えた彼岸の世界を想定する 来世  
科学は、「死」を意味づけることができない 物質の状態変化  
生命倫理に宗教と科学はどのようにかかわるのか？

## 目的論をめぐって

### (4) 未来、希望、終末論

- 「生きがい」について  
死なない理由づけ (宗教の役割)

「生きがいについて」 神谷美恵子 ハンセン病患者の世界に身を投じた 長島愛生園  
生きがいという言葉は、フランス語のリエゾン・デートル(存在理由)に近く、生きるに値するという実感である。

自分の存在意義について探究しようとする、次の四つの問が生じる

- (1) 自分の存在は何かのため、またはだれかのために必要であるか
- (2) 自分固有の生きていく目標は何か。あるとすれば、それに忠実に生きているか
- (3) 以上あるいは他から判断して自分は生きている資格があるか
- (4) 一般に生きるに値するものであろうか

生きがいを求める心

- (1) 生存充実感の欲求、(2) 変化への欲求、(3) 未来性への欲求
- (4) 反響への欲求、(5) 自由への欲求、(6) 自己実現への欲求、(7) 意味と価値への欲求

## 目的論をめぐって

### (4) 未来、希望、終末論

- 力としての神 (目的を実現する力、目的を生み出す力)

#### ヴァイツゼッカー 『人間—その内面史』

…神がみというのは概念ではなくて、力である。しかもその上、人間存在の支配的な諸力なのである。

ところで、力とはなにか？…

力とは、なにかあることをなすることである。力とは総じて、する、なす、可能性と関連がある。未来は可能的なものである。力は未来とかわりをもっている。…神がみは力あるものと考えられた。しかしより重要なことは、神がみは内的な力であることである。…非神論的というと、神が人間に現れてくるその像は、人間がなんであるかを示しているのではなく、人間がなんでありうるかを示しているのである。…この可能態は、人間にとってはひとつの概念ではなく、ひとつの力である。ひとつもつ概念は、過ぎ去ったもの、打ち克つたものに関してである。しかし右の可能態は、いまだ打ち克たれていないものである。

## 目的論をめぐって

### (5) 共同体(社会)の目的

・他者の存在 他者の心の存在  
個人の内面だけでなく、他者の心とのかかわりの中で目的、意味が生まれる

・個の間の関係

宗教 信仰は個人だけの問題ではない 共同体  
ヨブの問題も、イスラエルの亡国の歴史と関係している  
倫理(規則): 社会の秩序維持 (因果応報)、契約

科学 力を介した相互作用(物理) 双方向的  
4種類の力 重力、電磁的相互作用、弱い相互作用、強い相互作用  
量子力学的粒子の不可分離性 interconnectedness  
Einstein-Podolsky-Rosen(EPR) の問題  
社会生物学 利他主義 自然淘汰論に基づく説明

## 見えないものをめぐって

### (1) 相互作用 関係性

- ・見えること=相互作用の存在  
見えることの恩恵、見えるものの重要性

創世記 1-1

初めに、神は天地を創造された。地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。「光あれ。」

こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。

## 見えないものをめぐって

### (1)相互作用 関係性

- ・見えること＝相互作用の存在  
見えることの恩恵、見えるものの重要性
- ・原子論と全体論 部分と全体  
原子論:ものの性質は、そのもの自体が個別にもつ  
全体論:ものの性質は、相互作用によって決まる  
科学 部分への還元 下が上を支える  
宗教 全人格的 上が下を支える

## 見えないものをめぐって

### (1)相互作用 関係性

- ・見えること＝相互作用の存在  
見えることの恩恵、見えるものの重要性
- ・原子論と全体論 部分と全体  
原子論:ものの性質は、そのもの自体が個別にもつ  
全体論:ものの性質は、相互作用によって決まる  
科学 部分への還元 下が上を支える  
宗教 全人格的 上が下を支える
- ・相互作用(関係性)のあり方  
<われーなんじ>、<われーそれ> プーバー

マルティン・プーバー 『我と汝』

世界は人間の二つの態度によって二つとなる。

人間の態度は人間が語る根源語の二重性にもとづいて、二つとなる。

根源語とは、単独語ではなく、対応語である。

根源語の一つは、<われーなんじ>の対応語である。

他の根源語は、<われーそれ>の対応語である。

## 見えないものをめぐって

### (2)知覚の限界

- ・人間の知覚に限界があるために、ものが認識できる  
あらゆるものが見えるとかえって混乱する  
見えないことの恩恵
- ・見えないものの実在  
小さすぎるもの:原子、電子、素粒子  
大きすぎるもの:宇宙のはて  
数学的関係式に現れる物理量:力、質量、場、波動関数  
心理的なもの:こころ、精神、意識  
霊的世界
- ・知覚器官、脳の構造による制約  
認識できるものには、物理的な限界がある  
物そのものではなく、相互作用の仕方を出している
- ・道具主義(規約主義)  
理論を介して想定されるもの→経験的意味をもたない単なる規約

## 見えないものをめぐって

### (2)知覚の限界

- ・知覚の拡大  
検出器の発展:見えないものから見えるものへの変換(間接的)
- ・見えてしまったものは、信じる必要がない  
科学は死んだ宗教の記録?  
宗教が想定した見えない世界の縮小  
悪霊による病気 ⇒ 細菌・ウイルス  
非接触による奇跡 ⇒ 電磁場相互作用
- ・物理的説明の限界  
「細菌を送り込んだのは誰か」という疑問が残る

## 見えないものをめぐって

### (3) 見ること=出会うこと (見えないものの現れ)

- ・科学においては、見ること=観察、分析  
新たな知識との出会い  
見たい(見ようと試みた)ものしか見えない
- ・宗教においては、見ること=回心、飛躍  
神との出会い(ヨブ) エデンへの回帰  
出会いは、外から来る(気づき)

## 見えないものをめぐって

### (3) 見ること=出会うこと (見えないものの現れ)

- ・見えないものの重要性  
見えないものが現れると、生き方に大きな影響を与える

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えなくてさ。  
かんじんなことは、目には見えないんだよ」  
「星の王子様」 キツネの言葉

- ・見えないものとは何か  
見ようとしないもの

### 科学も宗教も自分には見えると言い張るところに問題があるのではないか

「見えなかったのであれば、罪はなかったであろう。しかし、今、『見える』  
とあなたたちは言っている。だから、あなたたちの罪は残る。」

ヨハネによる福音書 9章41

## 見えないものをめぐって

### (4) 現在と人格神

- ・生ける神: 現在において、人とかわる神  
神が時間性をもつと超越してられない  
神自身の進化 相互作用の双方向性
- ・人格神  
人格: 神の性格の一部  
信仰は、生ける人格神との対話
- ・人となった神(キリスト教)  
イエス

## 聖なるものをめぐって

- ・宗教: 「聖なるもの」に出会うこと

- ・「聖なるもの」=「超越者」  
「聖なるもの」自体ではなく、それが我々の内に喚起するもののみ認識できる
- ・「超越」が出てくると、科学との対話がむずかしい

- ・科学と「聖なるもの」

- 最先端科学と神秘主義  
実験による検証が不可能な領域  
現象の予測の困難 カオス、非線形・非平衡現象  
科学の非日常性

## 聖なるものをめぐって

- (1) 非論理性
  - ・超越、ヌミノゼ(オットー)
  - 被造物感情: 人間が無であること
  - 二重性: 「おそるべきもの」+「魅するもの」
  - 神秘なるもの、絶対に他なるもの
  - 非日常的神秘体験: 表現できない、直感的、一過性、受動感
- (2) 理性、論理性の限界
  - ・論理性自体の限界(ゲーデル不完全性定理)
  - ・科学の対象物の非日常性(常識の限界)
  - ・自然現象の予測、コントロールの限界: 偶然、死
- (3) 他者
  - ・人間のコントロールの及ばないもの
- (4) タブー
  - ・社会的側面 環境倫理、生命倫理
  - 科学にはブレーキがない
- (5) 生の冒険、驚き
  - ・信頼、自分の限界を超えたものへの挑戦